

雪うさぎ

2021. 4. 13

長く福島市に住んでいるが、吾妻小富士の雪うさぎを毎日見るのは、中学校以来のような気がする。正確には毎日見えるのである。毎朝、天気がいい。それも快晴である。おかげで、雪うさぎがくっきりと見える。

こんなに好天が続くのは珍しいのではなかろうか。雪うさぎが成長（うさぎの形に近づいていく）していくのがよくわかる。観察日記はつけていないが、これなら毎日写真を撮っておけばよかった。

毎朝、校門前の横断歩道のところに立っている。すると、目の前に雪うさぎが現れる。日に日に目がくっきりとしてきて、まるでこちらを見ているようである。一人一人の生徒に「おはようございます」と声をかける。その姿を雪うさぎはじっと見ている。

数日間、横断歩道のところに立っている。私には心配事があった。しかし、それは杞憂に終わった。横断歩道がある道路はかなりの交通量である。車が次から次へと通っていく。すぐ側に立っていると、正直こわい。果たして信号がない横断歩道で車は止まってくれるのだろうか。出勤時はどなたも急いでいるだろう。

実際はというと、本校の生徒たちが横断歩道にくと、車はちゃんと止まってくれている。そして、生徒たちは会釈しながら小走りに横断歩道を渡っていく。たまに、車は止まってくれているのだが、横断歩道を渡るのを躊躇してしまう生徒がいる。そういうときには、私が「渡っていいよ」と声をかける。

私はというと、止まってくれた車、一台一台に頭を下げている。すると、何だか朝から気分がよい。こんな様子も雪うさぎはじっと見つめている。それでも、毎朝、生徒が横断中に事故に遭わないかと気を付けながら見ている。

1年生も中学校に入学して1週間が経過し、登校の様子にも変化が起きている。どうにもこうにも危なっかしい感じだったものが、少しずつ落ち着きが出てきて、しっくりくるようになってきた。学校生活も同様であろう。まずは、安全に学校に来ることが最優先である。

そろそろ各教科の授業も本格的にスタートするであろう。今度は中学校の学習に慣れなければならない。少しずつ自分のペースをつくっていかなければならない。それが習慣化されて、ようやく中学生となる。まだまだ時間もエネルギーも必要である。

しばらくの間は、雪うさぎとともに、1年生の様子を注意深く見ていきたい。そして、雪うさぎが役目を終え、吾妻小富士から消え去る頃には、1年生から3年生まで、野田中学校の生徒たちが日々成長し、力をつけていく集団となっていることを願っている。

それにしても、種まきうさぎこと、吾妻の雪うさぎは見事である。偶然の産物とはいえ、福島を代表する春の風物詩である。